

## 第2回 京都府プレコンセプションケア推進事業 運営委員会 議事概要

### 1 協議・報告事項

- (1) 議題1 幼児期から社会人に至るまでのプレコンセプションケア推進に係る検討
- (2) 議題2 高校生を対象としたプレコンセプションケアに関する教育プログラムに係る検討

### 2 概要

- (1) 議題1 幼児期から社会人に至るまでのプレコンセプションケア推進に係る検討
  - ・(資料1) 京都府におけるプレコンセプションケア推進の方向性(案)
  - ・(資料2) 【論点整理】 幼児期から社会人に至るまでの教育・研修プログラム
  - ・(資料3) 幼児期から社会人に至るまでの教育・研修プログラム(全体像)
- (2) 議題2 高校生を対象としたプレコンセプションケアに関する教育プログラムに係る検討
  - ・(資料4) 【論点整理】 高校生向け教育プログラム
  - ・(資料5) 高校生向け教育プログラム(全体像)
  - ・(資料6) 生徒向け教材(案)(パワーポイント資料)
  - ・(資料7) 教員向け教育プログラム(案)

### 3 主な質疑応答及び意見交換

#### 【議題1 幼児期から社会人に至るまでのプレコンセプションケア推進に係る検討】

- 個別アプローチについて、妊娠出産・不妊ほっとコールの他はあるか。  
⇒(事務局)  
「きょうと妊娠 SOS・性の相談 LINE」を7月22日から京都府助産師会に委託し、今年度、期間限定で試行実施。今後は、施行実施の相談内容等を踏まえ、相談窓口等の在り方を検討していきたい。
- 集団アプローチについて、乳幼児健診だけではなく、妊婦教室など妊娠中からプレコンセプションケアのアプローチも有効と考える。こどもを出産した後の女性は、これからまた妊娠する前の時期になることが大変多いので、自分の健康が大事で、それが今後産まれてくるこどもの健康にも影響するという知識の周知が重要。
- 青少年活動センター等での講座など地域単位での取組も重要。
- 現状、大学生で性の知識がないまま、性的な関係を結ぶということがある。そういった学生にもアプローチしていきたい。

- プログラムに関して、中学校・高校では教員等が授業を実施するイメージかと思うが、幼児それから社会人はどのように実施するイメージか。

⇒(事務局)

例えば幼児期であれば、保護者の方向けのプログラムのイメージだが、幼児・こどもに対してということもあり得る。社会人であれば、企業でのセミナーなどを想定している。実施主体としては、例えば、企業の産業保健師や、医師会、助産師会に依頼し、出前授業に行っていたりなど様々なパターンがある。

- SNS の使い方も学校で授業を実施いただいているかと思うが、日々新しいアプリやソフトが出てきて、こどもは人付き合いや恋愛関係で活用している現状がある。こうしたことから本プログラムにも含めるかどうか検討すべきである。

- 妊娠してこどもが産める時期には限りがある。卵子の老化は非常に重要な視点であるため、プログラムに盛り込むことが必要。

- プログラムでは小学校6年生の時点で妊娠の話が入ってくるが、今までの流れとして、いきなり性的行為から若年妊娠はいけないと教えている中で、唐突にこのような流れが入ってきたように見えてしまう。若年妊娠を捉えるというよりは、妊娠のための体作りという観点から妊娠全体を学習することが効果的と考える。

## 【議題2 高校生を対象としたプレコンセプションケアに関する教育プログラムに係る検討】

- プログラムの全体像がわかりづらい。体系立てて内容を整理することが必要。例えば、身体に関すること、人間関係に関すること、性行為に関すること、産む産まないの選択に関すること等で整理されてはどうか。

- 動画については、教員の方がちょっと自分では自信ないなといった専門的な知識のものを動画にすることが有効と考える。また静止しているものだと伝わりづらいものもあるので、内容によっては、動きをつけた動画を作成いただきたい。

- 動画等で使う人物像については、ジェンダーレスにしていきたい。

- プレコンセプションケアを学ぶにあたっては、医学的知識が非常に重要となる。卵子・精子の老化や、不妊症、痩せ、子宮内膜症等の知識はしっかりと教材に盛り込むことが必要。

- 月経痛は子宮内膜症の予備軍であり、ピルで緩和することができる。そういったところも教え

ていく必要がある。

- 婦人科や泌尿器科を受診する心理的ハードルが高いということが課題。体に心配なことがあるときは、検査や治療ができるということも伝えていくことが必要。
- 高校生を対象としたプログラムであるため、妊娠周期の話や、妊娠と生理の関係の話、妊娠検査薬の使用方法、自然分娩と帝王切開の出産方法についても、もっと盛り込むべきである。
- こどもを産んだあとの生活や暮らしがイメージできるよう、赤ちゃんの24時間の様子や、産後のサポートが必要なこと、サポートする専門職がいるということも伝えていきたい。
- 性交同意年齢の説明があるが、盗撮や痴漢、ストーカー等の問題もあることから、性に関する法律のまとめがあれば良いと考える。
- 性的同意や性的自己決定の話が盛り込まれているが、性の売買や性の商品化、JKビジネス等も含めた内容にするとより有効と考える。
- 予期せぬ妊娠や性の暴力被害者については相談先を紹介する等で対応しているが、加害者への支援も重要と考える。
- 射精障害について、神経性射精障害、原発性射精障害まで範囲を広げると焦点がぼやけてしまう。生活習慣で妨げるものを中心とし、日々気をつけて生活することを学ぶ内容としてはどうか。
- 全項目の実施が難しい場合、「第3領域」を実施していただくことが望ましいとされているが、第3領域だけでは、知識の部分が少ない。
- 第3領域の内容について、公的なデータ中心ではなく、もっと自身のライフプランを考える内容とすべきと考える。自分がいつ何人こどもが欲しい、そのためには体を健康に保つことが大事だということ、その前に望まない妊娠や性感染症を予防することが大事という流れをしっかりと伝える必要がある。
- 産みたいときに産めないというような社会の状況や関連等についても学ぶ必要があると考える。またこどもを産みたいときに産める社会に向けて、学生達が社会を変えていける、社会の主体者であるというメッセージを伝えていくことも重要である。